

立川

立川と語ろう 立川に生きよう

January 2023

Écoutez Bien Vol.39 No.454

1

年末年始、火事・救急にご用心

表紙／新雪の富士山(柴崎町から)



Let's GO DICE



DICEを知ってください

立川が生んだ立川のプロバスケットチーム

その名も「立川ダイス」！
チーム名に街の名前を冠しています。
街のみんなと一緒に頑張りたい。

ダイスの試合詳細は、
多摩てばこネットをご覧ください。



3人制バスケットボールのチームとして2016年に誕生した「立川ダイス」。2022年10月から5人制B3リーグに参戦しています。生まれたばかりのチームですが、強豪相手に善戦、奮闘しています。スポーツを1つの媒体に、立川を盛り上げ、街に暮らす、働く、関わるみんなと一緒に新たな「夢」を追いかけてい。「立川」の名前を背負って、どんな相手でもひるむことなく、勇気をもって、諦めず挑んでいく。それが「立川ダイス」の姿です。

1月の試合から



「立川ダイス」のヘッドコーチは、間橋健生さん。目標は「常に1番」。規律の中でも選手1人ひとりの個性を大事に、楽しいバスケットをしていきたいと話されます。宮城県出身の間橋さん、立川はとても住みやすい街だとおっしゃいます。「オラが町のチーム」と認識してもらって、勝てば一緒に喜び、負ければまた共に励まし合う、家族のような存在になりたい。「ダイスが勝った」ではなく「自分が勝った」と思ってもらえるよう努力するとおっしゃっていました。



の個性をまとめて1位を目指します。

ホームアリーナは、もちろんアリーナ立川立飛。公開練習もありますから、SNSをフォローして情報を得てみてください。1月のホームゲームは1月7日(土)と8日(日)、対鹿児島レブナイズ戦です。鹿児島はちょっと強いんですね。勝利には、皆さんの応援が必要です！



ヘッドコーチ 間橋健生さん(中央)



キャプテンの酒井達也選手

火事も救急も、一人ひとりの意識が大事

火災の多くなる時期、立川消防署長にお話を聞く

コロナもさることながら、やはりこの夏多かったのは熱中症。

冬を迎えてこれからは寒くなる季節。

暑くても寒くても、大事なものは個々の意識。意識を高めて命を大事にもらいたい。

—署長は、小さい頃から消防士になろうと思われていたのですか？

宇田川 いえ、違いますねえ。

—JRの駅長さんなどにお話をうかがうと、代々国鉄だったとか、小さい頃から憧れていたとよく聞きます。消防署にもそんなことがあるのかなと思うのですが。

宇田川 ありますね。でも私は特に何かになりたとか考えていなかったなあ。前職があるんですよ、私は。アイスクリームを配達していました。

—え？それはまた全然関係ないお仕事で。そういう経歴は珍しいですね！

宇田川 珍しいですね。アイスクリームの配達をしながら、いつまでもこのままじゃなと思った、何か役に立つ仕事をしたかったと思っていました。たまたま高校の同級生が東京消防庁に入っていたので、事務職よりは身体を動かす方が性に合っているというか。それで東京消防庁を受験して、合格したので20歳の時に入庁したんです。

—そうだったんですか。

宇田川 入庁してから二部の大学に通って、卒業して、いろいろな職務を経験しながら今があります。

—消防署員は救急と火事とに分かれていると聞いていますが、署長はどちらですか。

宇田川 私は火事です。若い時はオレンジ服を着る特別救助隊の研修を受け、短い期間でしたがそういう職務にも携わりました。消防署の中でもいろいろ経験して、都庁にも勤務していました。新宿の都庁に2年4か月でしたかね、

眺めのいい所で勤務していました(笑)。外を眺めていると、たまに「自分はなぜここにいるんだろう」なんて思いましたけれどね。それも1つの経験で、いろいろな出会いもありました。—今まで7人くらい立川消防署長にお目にかかってきましたが、こういう経歴の方は初めてです。

宇田川 初めて管理職に就いた時は区役所で、足立区の災害対策課長という職務でした。それまではどちらかという担当課長とって一部門だけを担っている立場だったんですが、私の時から部下も持つてほしいということでしたね。

—経歴を拝見しますと、足立区とか大田区とか牛込とか、下町シリーズですね。

宇田川 私、多摩地区の勤務が今回初めてで。でも、経験できてよかったなと思っています。

—牛込なんて、おしゃれというか、江戸っぽいというか。

宇田川 下町ですよ。昔ながらの町名も残っていて。路地も細いところが多いし。路地は風情があっていいのですが、建物が密集していて、消防車が入れないような所が多くて、ドキドキしていました。

—コロナの蔓延は牛込にいらっしやる時からですか。

宇田川 12月に異動になって、年が明けてすぐコロナでした。ですから、立川の前佐藤署長と同じように、地域の皆さんとの関わりはほとんど持たずに終わりましたね。

—今回署長にお話をうかがおうと思ったのは、11月9日に行われた「火災予防業務協力功

労者表彰式」で、署長のお話の中に救急搬送が過去最高の多さだったという一文があって、それを詳しく教えていただきたくて来ました。

宇田川 搬送数は毎年更新しているのですが、東京消防庁全体で令和元年は825,929件、令和2年になって、コロナの影響で外出が減りまして一旦下がったんです。720,965件ですね。

—そんなに下がったんですか？

宇田川 そうなんです。令和3年はまた増えてきて、743,703件、そして今年、令和4年は11月17日現在、速報値で昨年を上回って755,281件です。残りの日数を考えますと、かなりの数値になるだろうと予想されます。

—コロナのせいですか？

宇田川 もちろんコロナもありますが、夏場の熱中症も多いですね。救急要請が多くて、通常の救急隊以外にも各消防署にある非常用の車両も使って、救急隊の数を増やして対応していました。

—立川の出場件数も増えているのですか？

宇田川 増えています。今年が11月16日現在で、13,691件。昨年同日の出場件数が11,848件ですから、すでに1,843件増えているということですね。その原因はやはりコロナと夏場の熱中症が大きいです。東京消防庁の傾向と同じということです。地域性というものはあまり無いと思いますね。

ひと昔前と違って暑さが尋常ではないので、おひとりおひとりがこまめに水分補給していただくことが最も望まれるところでですね。かつては「今日は30度超える」というのが暑さの目安だったんですがね。

宇田川崇氏

立川消防署長。千葉県市川市出身。1982年20歳で東京消防庁入庁。2012年4月に足立区災害対策課長、2014年4月足立消防署警防課長、2016年10月矢口消防署副署長、2019年4月第六消防方面本部副本部長(台東区、荒川区、足立区を管轄)、同12月牛込消防署長、2022年4月より現職。

—以前は暑いか雪だとかいうと八王子がテレビによく出たのですが、最近は立川駅前が映されるんですね。ところで火事の数はどうなんですか？

宇田川 立川管内で前年比8件少ないですね。—亡くなられた方は？

宇田川 残念ながらいます。なんとか火災による死者をゼロにしていきたいという思いで取り組んでいますが、本当に残念です。火災はいつどこで起きるかわかりませんから、消防団の皆さんはとてありがたい存在ですね。火事が起きればすぐ来てくれますし、我々と同じように活動してくれて、消防団の皆さんには頭が下がります。

—いま、このチラシにあるアプリをPRされているそうですね。

宇田川 はい。これは東京消防庁のアプリなんですけど、いろいろな情報を取得することができますので、ぜひダウンロードしていただきたいです。質問を入力すると、うちのマスコットのキュータが返してくれます。お子様が楽しめるコンテンツも含まれています。いざという時に使える情報も入っています。こちらのチラシは#7119です。救急車の要請をした方がいいのかどうか、悩むような場合にはこちらにお電話くださるのがいいと思います。—危険な場合に

はそこから救急車の要請をしてくださるそうですね。

宇田川 そうなんです。ですから、救急車を呼ぶかどうか迷ったら、#7119をご利用ください。

—消防署の皆さんはコロナにかかったりしないのですか。

宇田川 残念ながらかかりません。立川署でも一時期増えてしまったことがありまして、そういう時には普段泊まりでない勤務の職員に臨時に当番してもらって、なんとかポンプ車や救急車がいつでも出場できる体制を維持するようにしていましたね。この後はまたインフルエンザが心配ですね。

—救急や火事はもちろんですが、署長としてのお仕事は地域との関わりでしょうか。

宇田川 そうですね。それが署長としては一番大事な部分かもしれないですね。消防署単独では、当然地域全体の安全は守れないわけですから。地域の皆さんとともにいろいろなことに取り組んでいって、地域全体で安全を高めることが重要だと思いますし、私も顔を覚えていただいて、何かあった時にすぐに言い合える関係を作っていきたいと思っています。いろいろなイベントもあって、地域ごとの訓練も始まっていますから、地域の方々と顔を合わせる機会が増えてきました。警察との関係も大変重要ですし、あとは市役所ですね。うちは立川市と国立市を管轄していますのでね。最初にお話ししましたように、私も足立区役所にお話しましたように、地域の行政とのつながりがとても大事だということを認識しています。普段からいろいろなことを相談し合える関係というのは必要だと思いますね。—ところで、10月に行われた自衛消防審査会ですが。いかがでしたか。

宇田川 レベルが高いですね。どのチームも



本当によく訓練されていて、細かい点をよく見えないと審査できない。これまで区部におりましたが、どちらかという行政の方はあまり上手ではないんですね(笑)。

—でも、立川市役所はすごいでしょう。そうですね。安全・安心のまちづくりを進めてい

らっしゃいますから。**宇田川** ああいうことは、普段やらないことで

すからね。皆さん、どのチームも相当訓練されたんでしょうね。大きな声を出して、規律もすばらしいです。消防署で各チーム、練習されるじゃないですか。署員に「見に行け」と言ったんですよ。見習うところがあるから。消防学校で規律はたっぷりやってくるんですけど、署内にいるとある程度規律が弱まってくる場所があります。事業所の皆さんが取り組んでいる姿を見ると、やっぱり自分たちもやらなければと

きっと思ってくれると思って、見てくるように言いました。

—訓練って毎回同じなんですけれども、大事なんですか。

宇田川 毎回同じかと思うのではなくて、再確認していただく意味で訓練に取り組んでいただくというですね。またそれぞれのお宅の点検なども実施して、地震や災害に備えるための備蓄品なども定期的に確認するなど。細かいことに気を配っていただくと火事を未然に防げたり、備えが万全であれば苦労しないですむことができますから。



なんだか南口が面白くなりそう!

子どもも大人も楽しみました

3年ぶりに開催された「立川南フェスタ」の目玉は、なんとといっても「たちモンクエスト」。公式カード以外に個店カードもあって、色とりどりのカードを集めるのも楽しいし、それでカードゲームができるのも嬉しい。子どもだけじゃない、大人だって興奮しました。

11月23日、あいにくの雨で始まった「たちモンクエスト」。でも、受付開始時間より30分も早くから、アレアレア2階に行列ができていたのです。お父さんと一緒に、お母さんと一緒に、ファミリーで、大人1人の参加もあって、いろいろな人たちが並んでいました。

立川南口商店街連合会会長の長井琢英さんによれば、「3年ぶりの開催、しかも初めての企画で、もしいい天気になってドッと人が押し寄せたらどうなってしまいますか。そう考えると、雨でちょうどいいイベントびよりだった」のだそう。おっしゃるとおり、午後からは本降りになったこの日、10時からの受付で15時に終了しましたが、307人という予想以上の参加者で賑わいました。

確かにカードを1つひとつ見てみると、立川らしい名所シリーズの公式カードから、参加したお店が独自に作った個店カードも面白く、全部集めたくなるのもわかります。事前にワークショップで参加したお子さんたちが作ったカードも展示されていて、その中から今年の優秀賞が3つ選ばれ表彰されました。

イベントには東京経済大学の学生さんや、大原簿記法律専門学校立川校の学生さんがボランティアでお手伝い。学生さんにとってもこうした経験が今後に生きてくるのでしょう。カードがカードで終わらない。南口らしく、個店が個性を発揮して、今後に繋いでいかれることを期待します。なんだか南口が面白くなりそう予感!



優秀作品「タチタコミン」



優秀作品「ニジリン」



優秀作品「ルーラン」





シクラメン 店内にある絵本のそばで 花・花器とも大森良子

私の立川 私と立川

スープカフェなんでもない日の穏やかな日々

9

私の好物は具沢山のスープ。「スープカフェなんでもない日」のオーナーのまちこさんの人柄と美味しいスープに惚れて、根川を挟んだカフェの向い側に引越してきてしまった程です。営業日の金土日待ち遠しい…。時々家の窓から覗いてみると、「あつ、トモちゃんの野菜が来てる！」と、地場野菜を作っているシロガネ農園のお野菜が並んでたり。「そこに人が居る」それだけで何だか嬉しくなります。

以前は定期的に「おはなし会」がありました。詩や絵本の読み聞かせ、手遊び、わらべうた、紙芝居をスタッフや常連さんが披露する充実の催し物でした。私は絵本の読み聞かせを担当。人情活劇や狂言絵本を披露していました。

また時として「産後ドゥーラ」という職種により、ママのケアやベビーシッティングで、赤ちゃんを預かりながらカフェに顔を出す事もあります。「あらいつの間に二人目？」とスタッフの方に冗談を言われながら、楽しいひとときに癒されています。コロナのお陰とも言いますが、刺繍が趣味になりましたが、やはり早くマスクを外して本当の意味での「なんでもない日」になりますようにと願っています。

産後ドゥーラ 早川敏江